

# 秋葉山常夜燈

- 袋井の景観遺産探訪 I -



大門の常夜燈

2016  
袋井市教育委員会

# 秋葉山常夜燈について

失われつつある地域の歴史遺産を記録に残すため袋井市では平成24年～26年の3年間で袋井・浅羽地区の「秋葉山常夜燈」の悉皆調査を実施しました。

秋葉山常夜燈は、火防の神である秋葉信仰を具現化するもので、静岡県西部には150基以上が分布しており、袋井市内には50基が現存していることが確認されました。

秋葉山常夜燈には石製のもの、鞘堂内に石燈籠を設置したもの、瓦で葺いた龍燈型のもの、愛知県で製作されて持ち込まれた陶器製のものなどさまざまな素材からできています。これらの常夜燈は、東海道や秋葉道等の主要な街道や、地域の寺社・広場に設置され、現在でも多くの人々の信仰を集めています。地域の人々は秋葉講と呼ばれた組織を作り、当番を決めて毎晩燈籠に火を灯しました。また年に一度は地域の代表が交代で秋葉本社（または可睡斎）に参拝し、御札を受け取って各戸へ配布しました。

最近では、常夜燈は地域コミュニティの維持・復活の手段として、住民の誰もが願う「火の用心」や「家内安全」の気持ちを表現する手段として、常夜燈の新築や修繕を行う地域が増加しています。ここに、あなたの地域の秋葉山常夜燈はありましたか。

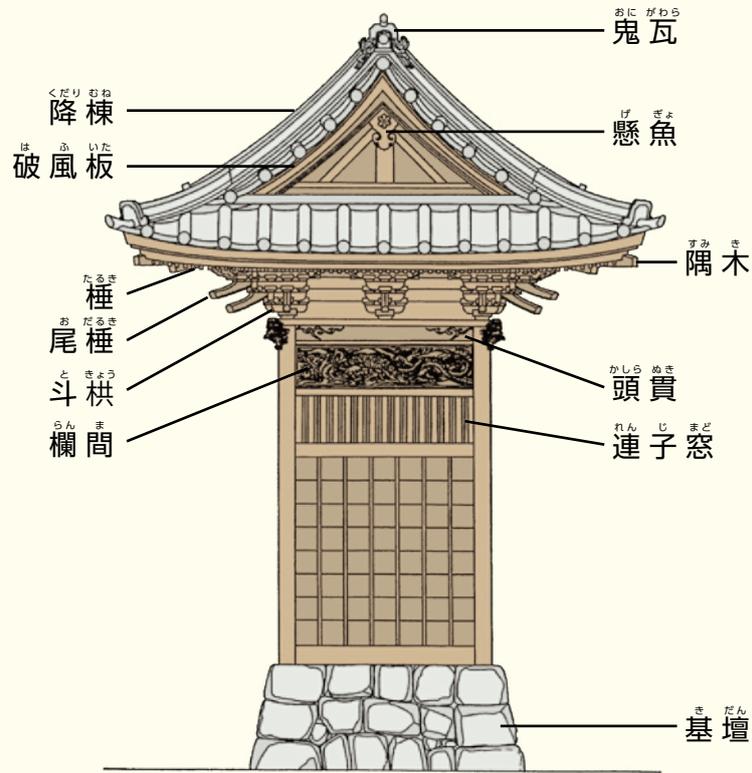
平成28年7月

袋井市教育委員会生涯学習課

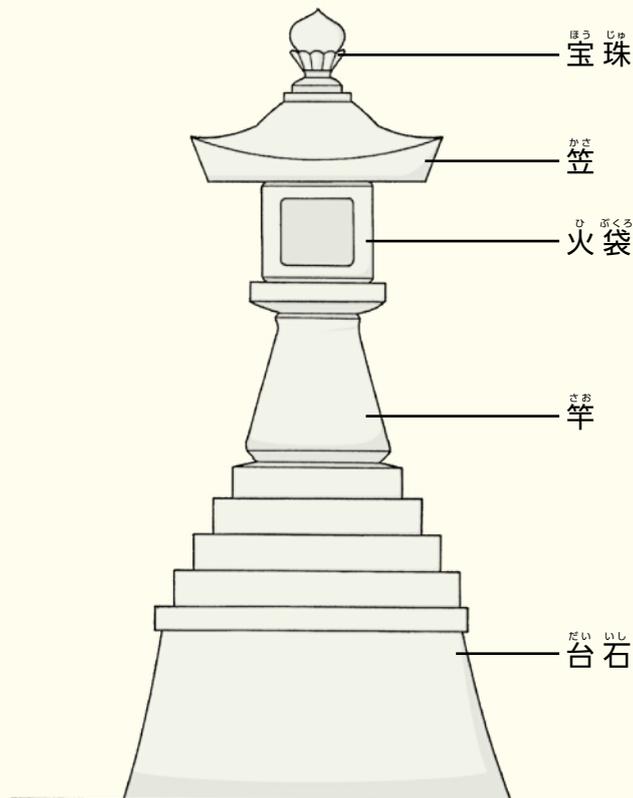
## 秋葉山常夜燈【目次】

① 山田の常夜燈 …………… 3	②⑥ 下貫名の常夜燈
② 川会の常夜燈	②⑦ 祢宜弥の常夜燈
③ 萱間の常夜燈	②⑧ 小野田の常夜燈
④ 友永の常夜燈	②⑨ 神長の常夜燈 …………… 10
⑤ 見取の常夜燈 …………… 4	③⑩ 旧東通りの常夜燈
⑥ 上山梨の常夜燈	③⑪ 旧中町通りの常夜燈
⑦ 入古町の常夜燈	③⑫ 大門の常夜燈
⑧ 下山梨の常夜燈	③⑬ 新池の常夜燈 …………… 11
⑨ 可睡斎の常夜燈 …………… 5	③⑭ 諸井の常夜燈
⑩ 岐栄講の常夜燈	③⑮ 芝の常夜燈
⑪ 御真殿前の常夜燈	③⑯ 浅名岡山の常夜燈
⑫ 大黒殿脇の常夜燈	③⑰ 長溝の常夜燈 …………… 12
⑬ 加藤左工門作の常夜燈 …………… 6	③⑱ 岡崎の常夜燈
⑭ 可睡口の常夜燈	③⑲ 山崎の常夜燈
⑮ 山科の常夜燈	④⑰ 豊住の常夜燈
⑯ 小山の常夜燈	④⑱ 富里下の常夜燈 …………… 13
⑰ 十二所神社の常夜燈 …………… 7	④⑲ 初越の常夜燈
⑱ 本町(御幸橋)の常夜燈	④⑳ 松原の常夜燈
⑲ 本町(旧円信寺)の常夜燈	④㉑ 松原の秋葉社
⑳ 新町の常夜燈	④㉒ 松山の常夜燈 …………… 14
㉑ 高尾町公園の常夜燈 …………… 8	④㉒ 湊西の常夜燈
㉒ 新屋の常夜燈	④㉓ 西同笠の常夜燈
㉓ 村松下の秋葉三尺坊	④㉔ 東同笠の常夜燈
㉔ 久津部の常夜燈	④㉕ 大野の常夜燈 …………… 15
㉕ 名栗の常夜燈 …………… 9	⑤⑰ 中新田の常夜燈

## 龍燈建築細部の名称



## 秋葉山常夜燈細部の名称



『龍燈・秋葉山常夜燈』より



## 袋井・浅羽地域の秋葉山常夜燈



名称	山田の常夜燈
場所	袋井市山田 八王子神社
時代	天保6年(1835)9月
特色	八王子神社の鳥居の近くに一对の石製の常夜燈がある。向かって左側が「秋葉永代夜燈」右側が「八王子神社永代夜燈」で火袋が欠損していたが、平成17年(2005)に復元され現在に至っている。特別に常夜燈でのおまつりはしていないが地域の「家内安全」「火の用心」を願っている。



名称	川会の常夜燈
場所	袋井市川会 建福寺
時代	不明
特色	明治20年(1887)に昌光寺(建福寺の末寺)が廃寺になった時の常夜燈は建福寺参道に移築された。昭和57年(1982)に道路改修により移され現在地に建立された。常夜燈の箱棟には「秋葉山」の文字瓦が見える。特別なおまつりはしていないが正月には住職がお供えをしてお経を唱えている。常夜燈の管理は檀家が行っている。



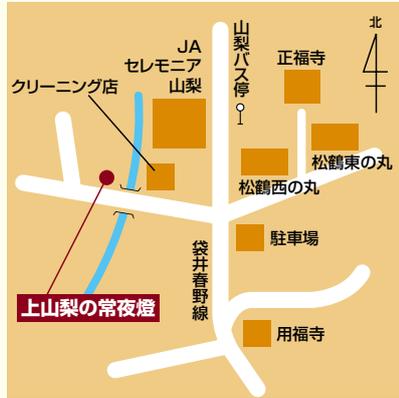
名称	萱間の常夜燈
場所	袋井市萱間 萱間神社
時代	不明
特色	萱間地区は、かつては袋井から秋葉詣に向かう道筋であった。もともと、常夜燈は現在地より300m北側にあった。現在は萱間神社の境内にある。この常夜燈の箱棟には「秋葉山」の文字瓦が入っている。常夜燈が、いつどんな経緯で移設されたかは不明である。



名称	友永の常夜燈
場所	袋井市友永 御沙汰神社
時代	平成7年(1995)大修理
特色	特色この常夜燈は、明治の初め頃、秋葉山の灯明堂として建てられた。平成7年に老朽化に伴い大修理を行った。秋葉街道は、この常夜燈の前から敷地川の西側の堤防上を北上し川会地区へと向かっている。



名称	見取の常夜燈
場所	袋井市見取 竜光庵
時代	不明
特色	もともと、この常夜燈は見取曲木地内を通過する秋葉街道の近くにあった。そのため、この常夜燈に続く道を地元では「灯明道」と呼んでいた。その後、河川改修のため敷地川の西側の蔵泉寺の境内のナギの木の下に移築された。平成8年の寺前橋の架け替え事業により現在地に移築した。



名称	上山梨の常夜燈
場所	袋井市上山梨 1058
時代	安永年間
特色	屋形灯籠内に石製の常夜燈が入っており「秋葉山」「安永14年4月吉日」「永代常夜燈」の文字が刻まれている。平成18年頃までは自治会各班が当番制により秋葉山の御札をいただきおまつりしていた。平成19年(2007)以降、このうちの6軒により防火を祈願している。毎年、屋形灯籠の正面に新藁で注連縄を飾っている。



名称	入古町の常夜燈
場所	袋井市上山梨 入古公会堂
時代	寛政元年建立
特色	この常夜燈は、寛政元年(1789)に建立される。昭和19年(1944)の東南海地震で倒壊し、風雨にさらされているのは不本意と、町内会の総意で、昭和62年(1987)11月に入古公会堂に移築され現在に至っている。常夜燈の管理は自治会が行い、会員に御札の軒旋をし各家庭での防火意識の高揚を図っている。



名称	下山梨の常夜燈
場所	袋井市下山梨 成道寺
時代	安政年間
特色	下山梨の常夜燈は、もともとは現在地から約100mほど北の秋葉街道脇に安政年間に建設されたものである。現在のものは再建されたもので成道寺の境内に設置されている。



名称	可睡斎の常夜燈
場所	袋井市久能 可睡斎
時代	平成 24 年 (2012) 9 月に移転
特色	中日新聞によると「この常夜燈は、愛知県岡崎市中町 7 丁目で取り壊しの予定であったが、豊橋市民の熱意と可睡斎の深いご理解により移築して大切に保管されることとなった」と。製作は天保 15 年 (1844) で、高さ 3m の石製の常夜燈には「町内安全」の文字が見える。



名称	岐栄講の常夜燈
場所	袋井市久能 可睡斎 御真殿
時代	明治 31 年 (1898)
特色	可睡斎の一番奥にある御真殿に参拝する階段を登ると、左右一対の大型の常夜燈が建っている。岐阜県の岐栄講のみなさんが献灯されたものようである。この常夜燈についての詳しい記録は可睡斎の事務室にも残されていない。



名称	御真殿前の常夜燈
場所	袋井市久能 可睡斎 御真殿
時代	不明
特色	岐栄講の左右一対の常夜燈の後ろにそれぞれ隠れるように建っている。左手の常夜燈は三州河合村 (現岡崎市) からの献灯、右手は周智郡村松村 (現袋井市) からの献灯である。



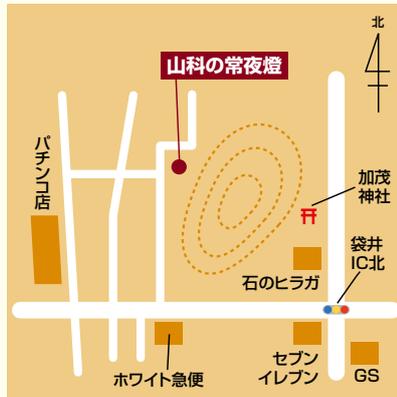
名称	大黒殿横の常夜燈
場所	袋井市久能 可睡斎 大黒殿
時代	不明
特色	御真殿に向かう階段の両側に一対の石製の常夜燈が建立されている。階段の左手 (西側) の常夜燈は木原村 (現袋井市) からの献灯、右手 (東側) は西島村 (現磐田市) からの献灯である。2 つの村は隣りどおしであり、両村でそろって献灯したものであろう。



名称	加藤空左工門作の常夜燈
場所	袋井市久能 可睡齋 御真殿内
時代	不明
特色	陶製の常夜燈には「寄附愛知懸」「瀬戸村中」「磁器焼職加藤空左工門製造」の染付銘がある。宝珠・請花・火袋と笠の一部が欠損している。なお、現存する加藤空左工門作の陶製常夜燈は可睡齋蔵、瀬戸市蔵、信州善光寺蔵、個人蔵の4基が有名である。



名称	可睡口の常夜燈
場所	袋井市久能 可睡口
時代	明治41年(1908)4月吉日建立
特色	かつて、この常夜燈は森街道から可睡齋へ向う分岐点にあり、目の前を走る秋葉線電車の安全も見守ってきた。平成16年(2004)、道路整備に伴う交差点の設計変更により現在地(MSC前)に移された。この常夜燈には明治時代の侠客、大庭平八郎の名が刻まれ防火鎮護の為に献燈したことがわかる。



名称	山科の常夜燈
場所	袋井市山科3375
時代	不明
特色	明治初期より「秋葉山燈明台」として地区の住民が「火の用心」を願って、毎晩交代で燈明をあげていた。昔の常夜燈は木製であったため、昭和19年(1944)の東南海地震により倒壊したが、戦後、石製の常夜燈として再建され、夜間は電気が点灯している。近年、火袋が修復された。



名称	小山の常夜燈
場所	袋井市小山 公会堂西側
時代	大正5年(1916)建立
特色	当初は小山から横井方面に向かう六尺道路の脇にあった。東南海地震以降は燈籠の倒壊と道路の拡幅のため公会堂敷地内に移築された。平成15年(2003)に住民の寄附により現在の場所に新築された。



17



名称	十二所神社の常夜燈
場所	袋井市川井 十二所神社
時代	文化8年(1811)9月に建立
特色	石灯笼の正面には、「秋葉山常夜燈」の刻銘があり文化8年9月に建立されている。秋葉山信仰の厚い人々により現在まで守り継がれてきている。



18



名称	本町(御幸橋)の常夜燈
場所	袋井市本町 本町宿場公園
時代	昭和42年(1967)に再々建
特色	建立は、江戸時代の寛政年間と伝えられているが、昭和8年(1933)に再建された。それがなんらかの理由で破損し、昭和42年6月に再々建されたという。もともとは、御幸橋のたもとと北側に立っていた。御幸橋の整備に伴い現在は南側の「本町宿場公園」に移築された。



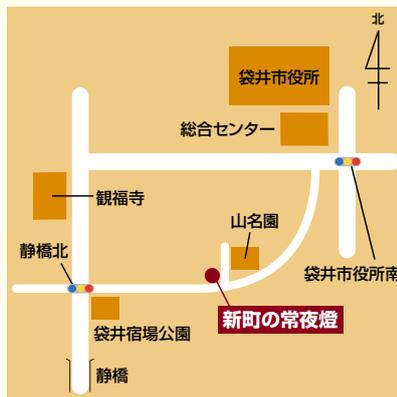
19



名称	本町(旧円信寺)の常夜燈
場所	袋井市本町 御幸橋の南
時代	寛政12年(1800)6月
特色	灯笼の建立場所は御幸橋の南に50mの旧円信寺跡である。江戸時代の製作のため石灯笼の風化は激しく「秋葉山」「寛政十二年申六月」と読めるがそれ以上の詳細については不明である。



20



名称	新町の常夜燈
場所	袋井市新町 「山名園」西
時代	平成28年(2016)3月7日復元
特色	以前は、ブロック製の碑型灯笼であったが、袋井宿開設400年を記念して地元の人々が常夜燈を復活させた。静岡新聞によると、この常夜燈は天保8年(1837)に設置されたが、東南海地震で倒壊。その後はブロックを積み上げて火伏せのお札を供えていた。



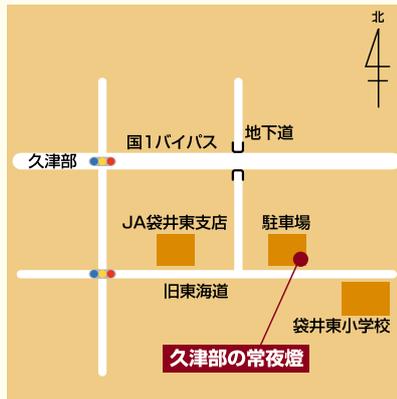
名称	高尾町公園の常夜燈
場所	袋井市高尾町 高尾町公園
時代	大正13年(1924)
特色	「組中安全」「秋葉山」の文字が刻まれている。由来については、市の公園台帳も調べてみたが、なぜ高尾町公園に移されたかその経緯は不明である。



名称	新屋の常夜燈
場所	袋井市新屋三丁目3
時代	明治時代か
特色	この屋形灯籠は、古老の話では建築した棟梁は信州の人、大工は川井の人と言われている。大正10年(1921)頃までは、毎月地域の人々が交代で可睡斎にお参りしてお札をいただき、灯籠内に御燈明を灯した。正月、五月、九月には全戸のお札を頂き配布した。



名称	村松下の秋葉三尺坊
場所	袋井市村松 金錫寺の裏山
時代	不明
特色	地域の歴史に詳しい兼子春治さんのお話によると、金錫寺の裏の尾根道を100mほど登ったところにある。現在も毎年11月末に三尺坊のおまつりを行い、地域の子どもたちにお菓子を配り、地域の人々に「火の用心」を周知している。



名称	久津部の常夜燈
場所	袋井市国本 旧東海道沿い
時代	昭和28年(1953)に再建
特色	秋葉山信仰の拠点として、江戸時代の天保4年(1833)に建立されたが、昭和19年(1944)の東南海地震で倒壊してしまった。戦後の昭和28年に再建されて現在に至っている。夜間は電気が点灯して、地域の安全を守っている。



25



名称	名栗の常夜燈
場所	袋井市国本 花莫座公園内
時代	不明
特色	かつての常夜燈は、国道一号線と旧東海道が合流する付近に建立されていた。高さ2m余りの「御本躰可睡三尺坊大権現」と記された大理石の道標と並んで建っていた。袋井バイパスの開通後は、花莫座公園内に設置され、東海道ウォークの人々からも愛されている。名栗地区の人々が「家内安全」「火の用心」を願っている。



26



名称	下貫名の常夜燈
場所	袋井市下貫名 下貫名公会堂内
時代	不明
特色	原野谷川の堤防近くの公会堂敷地内にある。檜材の格子作り、瓦葺きの屋根灯籠である。地域の人々からは「常夜燈」と呼ばれ親しまれ、秋葉信仰で防火の心を表している。



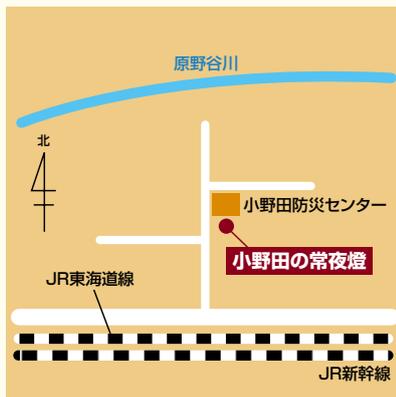
27



名称	祢宜弥の常夜燈
場所	袋井市愛野東2丁目 ねぎや東公園
時代	平成18年(2006)10月に移築
特色	檜材の格子作り、瓦葺きの屋根灯籠である。建物の鬼瓦や木彫りから、地域の秋葉山信仰の拠点として火防の役を担っていたと思われる。平成18年の祢宜弥土地区画整理事業により現在地に移築されたが、広く住民の目に留まる場所であり、地域の人々の防火への関心の高さが良くわかる。



28



名称	小野田の常夜燈
場所	袋井市愛野
時代	文政12年(1829)
特色	常夜燈は、昭和19年(1944)の東南海地震で倒れ、再建されたが、残念ながら火袋は壊れたままである。制作した石工は熊成?で「秋葉山夜燈」「村中安全」と立派な文字が彫り込まれている。現在は小野田防災センターの南側にあり、地域の安全と火の用心を見守っている。



名称	神長の常夜燈
場所	袋井市神長 神長自治会館
時代	平成9年(1997)移築
特色	神長自治会館の入口に建立されている新しい石製の常夜燈である。「秋葉山常夜燈」「町内安全」の刻銘がある。自治会館が新築された時、ここに建設されたい。



名称	旧東通りの常夜燈
場所	袋井市高尾 赤尾澁垂神社
時代	昭和2年(1927)5月に建立される
特色	もとは袋井駅前東通り木村花店の隣りに建てられていたが、駅前区画整理事業の時に町内会で相談して現在地に移転した。常夜燈の高さは2m19cm、御影石製で「常夜燈秋葉山 町内安全」の刻字がある。



名称	旧中町通りの常夜燈
場所	袋井市高尾 赤尾澁垂神社
時代	昭和3年(1928)5月の建立
特色	もとは袋井駅前東通り中村ラムネ店付近に建てられていたが、駅前区画整理事業の時に地域住民の意思によって現在地に移転した。常夜燈の高さ2m53cm、大理石製で「常夜燈秋葉山町内安全」の刻字がある。



名称	大門の常夜燈
場所	袋井市高尾 大門公会堂
時代	明治時代以前の建立とのこと
特色	常夜燈の建立は江戸時代にまで遡るとのことであるが未確認である。以前は、公会堂の東側にあったが、昭和33年(1958)に現在の場所に移転した。毎年12月15日に秋葉山よりお札を受け、地元で保管している掛軸と共に灯籠内に掲げておまつりしている。



**名称** 新池の常夜燈  
**場所** 袋井市新池68  
**時代** 不明  
**特色** 江戸時代の建立であるが年号は不明である。もともとは堤防下の街道の脇にあった。年の暮れには秋葉講の人たちが秋葉山でお札をもらってきた。常夜燈には毎日ローソクが灯されていた。昭和19年(1944)の東南海地震の後、改修されている。



**名称** 諸井の常夜燈  
**場所** 袋井市諸井 長昌寺  
**時代** 寛政8年(1796)  
**特色** 昭和59年(1984)頃、長昌寺周辺はお寺を中心に再整備をして現在に至っている。灯籠の管理は寺世話人が行い、可睡斎のお札をまつている。地域の人々が家内安全、火の用心を願って参拝している。



**名称** 芝の常夜燈  
**場所** 袋井市浅羽 円明寺  
**時代** 平成9年(1997)  
**特色** むかしの常夜燈は一度廃止されて寺の裏手に保管されている。平成9年に「火の用心」「家内安全」を願う住民からの希望により再建され、平成17年(2005)に現在地に移されてきた。管理は円明寺が行っている。



**名称** 浅名岡山の常夜燈  
**場所** 袋井市浅名 沢田良夫氏宅  
**時代** 昭和50年(1975)  
**特色** 道路工事により祠を南に約2m移動させて民地内へ移設した。灯籠は、行き交う人々が参拝しやすいように大きな石を四段積みあげた上に道路側に向けて設置した。戦前は少年団が、戦後は自治会が管理していたが、現在は沢田氏が正月の三が日に可睡斎からお札を受けておまつりしてくださっている。



名称	長溝の常夜燈
場所	袋井市長溝 栲原神社
時代	昭和50年(1975)
特色	昭和50年までは屋形灯籠であったが、約10m北側の道路境にある時計台に移設する。現在、管理は自治会であり、現在も毎年4名の当番が秋葉神社のお札を常夜燈におまつりしている。また、全戸分のお札もご祈禱していただき配布している。



名称	岡崎の常夜燈
場所	袋井市岡崎
時代	昭和7年(1932)5月に再建される
特色	現在は石灯籠であるが、以前は屋形灯籠であった。屋形灯籠の頃は、毎晩当番が、御灯明を上げ防火をおまつりしたが現在は行っていない。お札は可睡斎よりいただいた。コンクリート製で高さ3m10cmの規模である。



名称	山崎の常夜燈
場所	袋井市山崎 三沢祇園神社
時代	昭和33年(1958)5月5日に再建
特色	以前の灯籠は昭和9年(1934)の山火事で焼失したが、秋葉山信仰の厚い人々により再建され現在に至っている。昭和7年(1932)頃の道路改修により移築された。長年の風雨によるいたみがひどく、昭和33年に改修されて現在に至っている。



名称	豊住の常夜燈
場所	袋井市豊住 常楽寺前
時代	昭和31年(1956)
特色	もともと木製の屋形灯籠があったが、破損したため昭和31年に石製の灯籠にした。かつては秋葉講のみなさんが管理していた。当番は「常夜燈」と書かれた三角形の札を回覧していた。



**名称** 富里下の常夜燈  
**場所** 袋井市富里 松秀寺前  
**時代** 昭和35年(1960)  
**特色** 昭和の初め頃から、常夜燈の管理は地域の人々が交代で行っていた。現在も毎日欠かさず灯明をあげているという。「火の用心」「家内安全」を願っている。



**名称** 初越の常夜燈  
**場所** 袋井市初越 熊野神社  
**時代** 昭和13年(1938)8月  
**特色** 明治39年(1906)の神社合祀令後、熊野神社境内に移設されて現在に至る。昭和30年代に石灯籠の修理をしている。管理は自治会が行い、秋葉山の幟を秋の祭典に立て、秋葉講の当番が可睡齋に行ってお礼を受け取り灯籠でおまつりしている。



**名称** 松原の常夜燈  
**場所** 袋井市松原 松原研修センター  
**時代** 平成26年(2014)に修理  
**特色** 昭和39年(1964)までは現在地から南に4mのところ建っていた。平成5年(1993)ころ、管理していた秋葉講が解散してしまい常夜燈の危機を向かえた。これを見た自治会の有志が発願し、みんなの総意を得て「火の用心」「家内安全」を願いきれいに修理した。内部は現代風に光センサーで明かりが灯るようになっている。



**名称** 松原の秋葉社  
**場所** 袋井市松原 王御前神社内  
**時代** 昭和3年(1928)に建立。  
**特色** 昔からあった御社を、昭和3年に昭和天皇の御即位・御大典にあわせて新築した。さらに、平成21年(2009)には王御前神社の境内の整備に伴い新たに大きな鞘堂を建設し、堂内の東側に秋葉社を設置した。隣は天王社である。



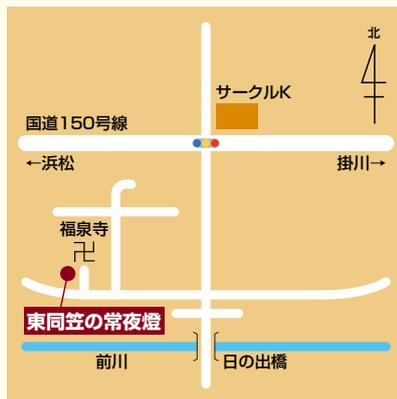
名称	松山の常夜燈
場所	袋井市梅山 松山神明社
時代	不明
特色	昭和15年(1940)以前のように不明であるが、戦前から地元の18世帯が1カ月交代で月3回(10日,15日,28日)お灯明を上げている。年末には宮当番が注連縄を飾り、全戸の「火の用心」「家内安全」を祈っている。



名称	湊西の常夜燈
場所	袋井市湊 万福寺境内
時代	昭和58年(1983)
特色	かつては檜造りの屋形燈籠であったが老朽化のため昭和58年11月に現在の形となる。燈籠は周囲が暗くなると自動で点灯し、住民の「交通安全」「火の用心」「家内安全」を願っている。



名称	西同笠の常夜燈
場所	袋井市西同笠 西同笠集会所
時代	不明
特色	もともと常夜燈は伯泉庵(廃寺)の境内にあったが、昭和57年(1982)に現在の場所に移った。自治会の班により交代で当番となって各行事を行っている。年末には注連縄を交換して野菜や御神酒を供える。お札は可睡齋にもらいに行き、地域で防火に努めている。



名称	東同笠の常夜燈
場所	袋井市東同笠 福泉寺境内
時代	不明
特色	昭和の初期から福泉寺の境内に常夜燈があったと言われている。「火の用心」を願って、火防のお札は平成4年(1992)までは秋葉神社へ、それ以降は可睡齋へもらいに行っている。現在も秋の祭典や正月には幟を立ててお参りしている。



名称	大野の常夜燈
場所	袋井市大野 大福寺境内
時代	昭和32年(1957)
特色	大野地区では昔から野菜の温室栽培が盛んで、特に冬期は暖房用に重油ボイラーを使用していた。昭和32年ころ火事を防ぐために温室組合員が秋葉神社にお参りして、組合員に「火の用心」と「家内安全」のお札を配布した。



名称	中新田の常夜燈
場所	袋井市中新田 中新田老人憩いの家
時代	平成18年(2006)
特色	平成17年(2005)の道路工事により私有地から現在地に移し新設された。昭和20年(1945)頃までは秋葉講の組織があり、毎年12月に当番が秋葉神社に出向き、受け取ったお札を祀るとともに幟を立て正月を迎えた。現在は、地域としては特におまつりはしていない。

#### 【参考文献・引用文献】

1983 静岡県教育委員会	『静岡県歴史の道調査報告書-秋葉道-』
1995 北みちしるべの会	『秋葉古道を訪ねて』
1996 浜北市教育委員会	『龍燈・秋葉山常夜燈』
1997 三川歴史研究会	『三川の史話伝説』
1998 田村貞雄	『秋葉信仰』
2002 海野一步	『みちしるべ』

#### 【協力者】(敬称略・順不同)

- ・清水忠雄(三川地区リサーチ)
- ・兼子春治(村松地区リサーチ)
- ・原利秋(浅羽地区リサーチ)



## 失われた秋葉山常夜燈

	写 真	名 称	場 所	年 代	特 色
1		山田公会堂の常夜燈	八王子神社	不明	かつて屋形燈籠が、山田公会堂前にあったと言う。いつの頃か八王子神社の境内に移築された。現在は八王子神社本殿に向かう階段の中段に基礎部分のみが残されている。常夜燈の建物部分が失われた経緯などは不明である。 【参考文献】 『三川の史話伝説』2. 秋葉燈籠籠
2		大谷の常夜燈	三島神社	不明	平成2年(1990)に老朽化のため取り壊された。かつては神社の拝殿横に屋形燈籠として建っていた。地域の人々が当番制で灯明をあげていたとのことである。 【参考文献】 『秋葉古道を訪ねて』27番 『三川の史話伝説』2. 秋葉燈籠籠
3		深見神社の常夜燈	深見神社	寛政6年 (1794)	かつては太田公会堂付近にあったと言われている。現在は石材がバラバラで境内に積み上げられている。「常夜燈」「寛政6年」の文字が見える。 【参考文献】 『秋葉古道を訪ねて』33番
4		沖山梨の常夜燈	王子神社	不明	かつては、王子神社の境内の南隅に建てられていた。昭和19年(1944)の東南海地震で倒れて大きく破損した。現在は、火袋と笠の一部のみ拝殿の西側に保管されている。 【参考文献】 『秋葉古道を訪ねて』32番
5		春岡の常夜燈	西楽寺南50m付近	不明	昭和62年(1987)頃、老朽化のため取り壊されたと言う。かつては道路の脇に建っていた。曲がり角に建っていたため、自動車の通行には見通しが悪かった。 【参考文献】 『秋葉古道を訪ねて』21番



	写 真	名 称	場 所	年 代	特 色
6		弥太井の常夜燈	弥太井正眼寺公会堂	不明	現地には常夜燈の基礎部分のみ残されている。昭和30年(1955)頃までは屋形燈籠があり、秋葉講も行われていた。常夜燈はもともとは街道沿いにあったが道路整備等でここに移築したらしい。
7		浅岡(米丸)の常夜燈	浅岡バス停北50m	不明	昭和35年(1960)頃まで理春庵への入口左手に古びた常夜燈が建っていた。付近には火の見櫓、ポンプ小屋、用水池等があった。昭和40年(1965)頃、道路拡幅により常夜燈は撤去された。住民の記憶によると、常夜燈は屋形燈籠で檜造り、屋根は入母屋造りで瓦葺き、祠の部分は格子戸と板葺き、高さは2m50cm以上あったとのことである。
8		中の常夜燈	用智院墓地西側付近	不明	古老の話によると、昭和5年くらいまで秋葉講があったと言う。設置された燈籠は、1m50cmくらいのしっかりとした柱の上に横25cm、奥行き25cm、高さ35cmの祠を作って窓を切り取り明かりを灯して行き交う人の安全を守った。祠の管理は秋葉講の人々が管理したと思われる。
9		富里中の常夜燈	東照堂付近	不明	地元の古老の話によると、昭和初期に現在のお寺の薬師堂の東あたりに燈籠があったという。ここは、小学生たちの登校の集合場所であり、学校が終わってからの遊び場でもあった。しかし、常夜燈に関する記憶はほとんどないとのことであった。
10		太郎助の常夜燈	太郎助公会堂西側	不明	昭和28年(1953)頃、太郎助公会堂の西側に墓地が整備され、墓地の周囲には植栽が施された。古老の話によると、この植栽の中程のやや北寄りに屋形燈籠があったと言う。残念ながら、これ以上の詳しい事項を知る人はいなかった。

# 秋葉山常夜燈MAP

